



## 岡山ユネスコ協会へのメッセージ

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 会長 松田 昌士



日頃より岡山の人々の心に平和のとりでを築く活動にご尽力されている岡山ユネスコ協会の会員の皆様に心よりお礼申し上げます。

昨年、岡山と名古屋で「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催され、国連ESDの10年が成功裏に終了するとともに、グローバル・アクション・プログラム（GAP）という2015年以降の新しい行動指針が発表されました。

日本ユネスコ協会連盟は、地域のユネスコ協会がユネスコスクールと連携して、学校内外の相乗作用によってESDを推進していくために、GAPの具体的方策としてESDパスポート事業を積極的に展開しています。

貴協会はESDパスポート事業に主体的、積極的に取り組まれ、岡山市と矢掛町の24校の児童・生徒にESDパスポートを配布し、体験による学びの機会を提供されています。また、ボランティア活動に主体的に取り組んだ児童・生徒に対する活動認定証の贈呈や体験発表会の開催などにも意欲的に取り組まれています。これらの活動は、ESDへの若者の参加の支援や地域コミュニティの参加を促進する優れた活動だと思います。心から敬意を表します。

今後とも、連盟とも手を取り合って、ESDパスポート事業の先進取組協会として、平和のとりでを築くESDの推進にリーダーシップを発揮して下さいを期待いたします。

## 2014 ESD ユネスコ世界会議を終えて

副会長 藤木茂彦

岡山市としては初めてと言っても良い、国連機関主催の世界会議が昨年秋に開催されました。ここまでの道のりをよく知るもの一人として、感無量といったところです。これまでの経緯をふり返ってみました。

### <岡山ユネスコ再結成>

岡山ユネスコ協会は1994年に再設立されました。「再設立」の意味は、日本の国連加盟に先立ち、1947年に仙台初めて民間ユネスコ協会が設立され、翌年各地に設立されたユネスコ協会を連合する形で日本ユネスコ協会連盟が出来た頃に、岡山ユネスコ協会も大原総一郎氏を中心に設立され活発な活動が行われていたものの、その後不活性となり休眠状態にあったところ、それが三宅正勝元会長を中心に再結成されたという経緯がありました。再出発した岡山ユネスコ協会のテーマは「国際」・「環境」であったと思います。この年に同じく「国際貢献トピア岡山構想を推進する会（トピアの会）」がAMDの菅波茂代表を中心に設立されました。「西のジュネーブ、東のおかやま：国際貢献NGOサミット」の始まった年です。そして翌1995年の1月に阪神大震災が発生しました。後に、この1995年は「ボランティア元年」と呼ばれる事になりました。

岡山ユネスコ協会では「ユネスコ地球環境講座」という講座が始まり、私自身はNGOサミットの事務局を担当

していました。1997年のNGOサミットのテーマは「環境」で、岡山ユネスコ協会が中心に運営しました。1999年には「地球環境と私たち」というテーマでユネスコ運動全国大会を岡山シンフォニーホールなどを会場に主催しました。また、トピアの会においても三宅前会長を中心に市内の小中学校で「国際姉妹校」活動が進められ、2001年のNGOサミットでは「こどもサミット」として、海外から7カ国14校50名のこどもたちを招聘し、各姉妹校のこども達の家庭でホームステイを実施しました。

### <ESDのはじまり>

そのような活動の中で、2002年には、1992年にリオデジャネイロで初めて開催された「地球サミット」から10年目を期して「リオ+10；持続可能な開発のための世界首脳会議（WSSD）」が南アフリカのヨハネスブルグで開催される事になりました。ユネスコやトピアの活動に理解を示していた当時の萩原誠治岡山市長が、サミットにおいてユネスコが主催する会合に自治体としての招待を受け、参加を表明しました。ところが市長自身は急な病気のために参加することが出来ず、岡山ユネスコ協会理事であった池田満之氏を岡山市特別代表に指名し、池田氏は会議で岡山市としてのプレゼンテーションを行いました。この会合には日本からも多くのNGOが参加していましたが、自治体としての招待参加は岡山市だけでありました。このヨハネスブルグでの会議に、小泉首相（当時）が乗り込み、持続可能な社会づくりのためには「教育」が重要である事から、国連に対し「ESD：持続可能な開発のための教育」をテーマとする国連の10年を提案しました。この表明は日本の行政、学界、NGOの共同歩調の上に乗ったものであったと言えます。

日本政府は、この提案を同年の国連総会に提出しました。総会での決議を受けて2005年から「国連ESDの10年（DESD）」が始まる事となり、担当機関としてUNESCO（本部：パリ）が指名されました。また、国連大学（UNU本部：東京）が高等教育機関としてのESDの推進を行う事となり、世界各地にRCE（ESDを推進するための地域拠点）を設置してゆくこととなりました。岡山市はこのRCEの指定に向け、岡山市、岡山大学、岡山ユネスコ協会その他の機関と岡山ESD推進協議会を設立し、萩原市長および協議会の座長に就任した岡山ユネスコ協会理事であった青山勲岡山大学副学長（当時）が先頭に立って取組み、2005年に世界で最初のRCEの1つに認定されました。この世界で最初に認定された7箇所は、「イニシャルセブン」と呼ばれ、RCEのリーダー的な存在に位置付けられています。

一方、岡山大学においても、ESDの受け皿となる「ユネスコ・チェア」の指名をユネスコ・パリ本部に申請し、日本では最初の「ESD ユネスコ・チェア」が岡山大学に設置され、やはり岡山ユネスコ協会理事である阿部宏史教授（現副学長）が就任し、ESDのプロジェクトを同大学で展開する事となりました。

### <世界のESDをリードしたおかやま>

「おかやま国際貢献NGOサミット」は、「医療」「教育」「福祉」「宗教」「環境」をテーマに1994年から2005年まで12回開催されました。最後の3年間はテーマを「ESD」として、ユネスコ・パリ本部をはじめ関連の団体や関係者を招聘し、上記のさまざまな動きと連携してきました。その翌年からはCOINN（岡山県国際団体協議会）がDESDを推進する国際会議を継続してきています。その中でも、特筆されるのは京山公民館を中心にしたESDの具体的な活動で、住民、小・中学校、高校、大学そして行政が協働して地域の環境点検などに取組み、その成果を積み上げてきた事です。これには立ち上げ段階から岡山ユネスコ協会が深く関わってきました。京山地区のESD活動は、岡山でのNGOサミットやヨハネスブルグでの世界会議、その他ユネスコ本部の事例紹介などで何度も取り上げられ、岡山、また公民館活動というものを世界に発信してきました。2006年には「岡山市京山地区ESD推進協議会」（会長：池田満之岡山ユネスコ協会副会長）へ組織を改め、その後の岡山市のESD活動において大きな役割を果たしてきています。

岡山市役所には、2005年のDESDのスタートと同時に、ESD推進事務局が置かれ、ESD推進協議会のステークホルダー（町内会、市民団体、教育機関、企業、行政など）の交流、情報交換を推進し、市民の間でESDの推進に努めてきました。一方でCOINNなどと国際会議を継続し、公民館と海外のGLC（コミュニティ学習センター）とを結ぶ活動を行ってきました。2012年にはDESDの最終年である2014年の世界会議の会場を岡山市が愛知県・名古屋市と共に引き受けることが決定されました。

### <西のジュネーブ、東のおかやま>

昨年の世界会議を通じて、岡山と世界のESD関係団体（GLC、ユネスコスクール、RCE、大学、NGOなど）とのパイプが出来たはずですが、しかも、「おかや



ま」の「おもてなし」は参加者に相当良い印象を残しているようです。これは、岡山にとって大きな資産ができたことを意味しています。ESD ユネスコ世界会議の終わった11月末に、AMDA 30周年記念式典が行われました。緊急医療を中心とした AMDA ネットワークにも30数カ国50人以上の医療 NGO が集結しました。AMDA を中心にトピアの会が目指したものは、政府関係機関 (GO) ではなく、民間市民団体 (NGO) が、地球規模の共通課題の解決策を探るために集まってくる「国際貢献都市おかやま」でありました。それを「西のジュネーブ、東のおかやま」というフレーズに籠めていました。ESD ユネスコ世界会議、そこで提示されたさまざまな人類共通の社会課題は、このような国境を越えた市民たちが相互に叡智を出し合い、認識を共有する事によって、解決に向って行くのではないのでしょうか。今後とも、岡山でそのような集まりが継続して行われる事によって、世界に誇れる街づくりにつながって行くことを願っています。

## 第16回「絵で伝えよう

### 私の町のたからもの・絵画展」

理事 小坂田 孟

平成27年1月6日～11日・岡山県生涯学習センター1階展示室にて第16回「絵で伝えよう私の町のたからもの・絵画展」を開催しました。この絵画展には岡山市内小中学校16校から275点もの応募がありましたが、11月にIPU環太平洋大学で開いた審査の結果、小学校60点中学校30点の入賞を決めました。

日本ユネスコ協会連盟会長賞は建部小学校1年生の「齋木奏佑」くんの「建部祭り」(写真)が選ばれました。岡山ユネスコ協会会長賞は桑田中学校の堀江隼太君の「三石の四列穴門」が受賞しました。

この絵画展に感動された方からご寄付をいただきましたので、入選者以外の応募者全員に参加賞を差し上げました。保護者先生方も喜んでおられました。



齋木奏佑君の作品



武会長から賞を受ける受賞者

## 「第10回岡山市北区京山地区 ESD フェスティバル」報告

副会長 池田満之

地域密着型の ESD 先駆的モデルづくりとして、岡山ユネスコ協会としても立ち上げ段階から取り組んできた岡山市京山地区の ESD 活動、その第10回「京山地区 ESD フェスティバル」が2015年1月31日～2月1日に岡山市立京山公民館を会場に開催されました。10回記念として開催された「京山 ESD 対話」には、岡山市長や岡山市議会議員や岡山市教育委員会委員長などが、



地域の小中学生や在住外国人や一般住民などからの様々な意見や提案に一つ一つ丁寧に対話されました。ユネスコの基本理念は相互理解と相互協力による平和な社会づくりですが、今回の対話はまさにそのための価値あるモデルケースと言えます。今後、ESD の普及浸透と共に、こうした対話の場が各地で開かれるように広めていきたいです。

# ESD パスポート 体験発表会 報告

ESD パスポート担当会員 都築 勉

ESD パスポートは、ユネスコスクールの児童生徒が ESD の趣旨に沿ったボランティア活動を行い、パスポートに模した手帳にボランティア活動を記録し 1 年間に振り返り体験発表会で相互に発表するものです。昨年度の試行から、本年度は本格実施初年度となり、当協会関係では 24 校 3,000 人を超える児童生徒が参加しました。日本ユネスコ協会連盟からは古澤様が視察に来てくださいました。

## 第 1 回体験発表会に約 150 名が参加！！

1 月 31 日 午前矢掛会場、午後岡山会場

**1 表彰** 30 ボラン達成の矢掛高校 68 名、京山中 3 名、矢掛中 3 名、藤田小 26 名、矢掛小 2 名合計 102 名に日本ユネスコ協会連盟からのボランティア活動認定証を伝達。続いて 15 ボラン達成者 167 名を岡山ユネスコ協会が表彰しました。

**2 体験発表** 矢掛会場では中川小、矢掛小、矢掛中、矢掛高校が、岡山会場では御南中、岡山学芸館高校、三勲小が体験発表。御南中の発表では生徒の他に地域の方や校長先生が発表されました。

**3 地域交流会とポスターセッション** 先生方や岡山ユネスコ協会会員が情報交換をしている間、生徒たちはポスターセッションをしました。児童生徒は異学年間・異校種間での交流が予想以上に広がりました。

**明日に向かって** ボランティア活動を通じて、地域の人や諸団体の人と接することができた子どもたちの目は生き生きしていました。自ら考え、判断し、行動することが身についています。発表会やポスターセッションに参加した子どもたちは他校や異校種校の活動に興味を持ち、自らインタビューしていました。その中で明日の活動に生かすアイデアが生まれたり、将来の自分の活動について新たな気づきや学びの機会を得たりしました。大人たちも子供たちの意見を聞いて、感心することしきりでした。



矢掛中学校の発表



御南中学校の発表



岡山会場でのポスターセッション

## <新入会員> ( ) 内は紹介者

団体会員 学校法人加計学園 (小西真弓) 平成 26 年 12 月 16 日～27 年 3 月 31 日

## <編集後記>

今年も桜の開花の時期となりましたが、みなさまいかがお過ごしですか？

会員の皆様方には、ユネスコの活動について理解していただき、今後のご協力をお願いいたします。ニュースレターを通して、会員の皆様からのご意見、ご感想をどしどし取り入れていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。連絡はメールでもかまいません。(理事 難波芳子)

発行 岡山ユネスコ協会

〒 709-0863 岡山市東区瀬戸町観音寺 721 IPU・環太平洋大学内

電話 086-908-0200 FAX 086-908-0280

ホームページアドレス：<http://www.unesco.or.jp/okayama/>

E-mail：[okayama@unesco.or.jp](mailto:okayama@unesco.or.jp)